

令和３年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立今福小学校

校長 寛座 純一

令和４年３月

大阪市立今福小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営における現状と課題

1. 道徳心・社会性について

規範意識や思いやり・情操面を問う本校児童アンケートでは平成25年度と比べ、今年度も改善点が多くみられた。これは1年間を通して系統的に週目標を設定し、指導してきた成果と考えられる。

しかし高学年ほど「きまりを守る」に対する肯定的な回答は低下する傾向があるため、今後も集団登校や縦割り班、異学年での活動等を多く取り入れることで、児童同士で規律を高めあえるようにしたい。

いじめの認知は、年3回の児童アンケート調査、日常の児童観察、毎月の校内委員会での情報共有を通して、早期発見・早期解決に取り組んだ結果、全ての事案に指導を入れ、解決できたと考えている。また、中学年以上でのSNS使用に係るトラブルを防止するため、外部講師等を招聘し、正しい使用法についての指導を行う必要がある。

本校には、支援を要する児童が多く在籍しているため、さらにインクルーシブ教育の推進を図るとともに、個々の児童に対する適切な指導のあり方を研究する必要がある。

防災・減災教育については、「防災対策マニュアル」を活用し、地域や区役所と連携した防災教育に取り組んでいる。本校児童アンケートで、「自分の命を守る」の観点を問う肯定的な回答はかなり高いが、今後も「安心安全」のための取り組みが必要である。

「学校安心安全ルール」(HPに掲載)は、平成28年度に学校協議会で決議し、今年度も保護者に配付した。今後も本ルールに則り、適切な指導を行う。

2. 学力・体力について

今年度の全国学力・学習状況調査および大阪市学力経年調査については、各教科の平均正答率が、全国・大阪市のいずれの平均点も下回っており、これまで大きな成果を残せていない。今後も引き続き、各教科、各学年の平均正答率を高めるため、習熟度別少人数指導、放課後学習指導等により基礎的内容を反復練習させたい。また、指導主事等を招聘し、研究授業等を通して教員の指導力を高めたい。

全国体力・運動能力、運動習慣調査については、各学期で体力測定を実施し、児童の意識改革に取り組み、「休み時間に外でよく遊ぶ」児童を増やすことができた。また、児童会運動委員会が体育倉庫用具貸し出しや担任が外に出る時間を増やすことで、児童の運動能力などの改善を図った。また、支援を要する児童の運動能力等の向上については、個々の児童の特性を見極めた適切な学習教材や指導方法で実施した。

2 学校運営の中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を平成28年度より5%向上させる。

（施策2 道徳心・社会性の育成）

○ 平成29年度～令和3年度の年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 令和3年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 令和3年度の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を90%以上にする。

（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 令和3年度の全国学力・学習状況調査における国語・算数の知識に関する問題の正答数が7割以上の児童を平成28年度より5%以上向上させる。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 令和3年度の大阪市学力経年調査における標準化得点を平成28年度より向上させる。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 令和3年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的な回答の割合を平成28年度より向上させる。

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成28年度より3ポイント向上させる。

（施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成）

○ 令和3年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

（施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成）

3. 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小学校）

- 1 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 2 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 4 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて解消した割合を毎年100%にする。
- 2 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 3 年度末の校内調査において暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度同様、0とする。
- 4 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度同様、0とする。
- 5 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- 6 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。
- 7 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

- 1 小学校学力経年調査における標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 2 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 3 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 4 小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、前年度までの課題や現状を踏まえ、体力向上に係る目標を、各学校ごとに必ず設定すること。（例：50m走、たち幅とび）の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 1 小学校学力経年調査における標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 2 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 3 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。

- 4 学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である（50m走、たち幅とび）の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。
- 6 学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を、各学年とも前年度より1ポイント以上向上させる。
- 7 校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

4 令和3年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

今年度はコロナ感染症対策の影響はあったが、主な学校行事や各教科の学習を実施できた。また、「いじめ」や「不登校」の芽を大きくすることなく、児童は安心安全な学校生活を送ることができた。

1 認知したいじめの解消率は100%（5年連続）

2 【校内調査】における「学校のきまり・時間を守って集団登校できていますか」の項目について、肯定的な児童の割合は、 83.2%

3 暴力行為を複数回行った児童は0人

4 不登校児童数は0人（5年連続）

～R3.10月実施 児童アンケート【校内調査】より～

肯定的回答の割合の高い項目は、次のとおり。

- ・「学校は楽しいですか」 94.2%
- ・「友だちを大切にし、なかよく遊んでいますか」 97.8%
- ・「地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」 92.7%

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

コロナ禍の中、当初に予定していた多くの教育活動が中止または延期となったが、感染症対策を講じながら、可能な限りほとんどの教育活動を実施した。本校の年度目標における各指標の達成状況は、次のとおりである。

- ・学力向上の対策として、教員による研究授業や公開授業を行い授業後の、研究協議を実施することで、教員の授業力を高めることができた。
- ・習熟度別少人数授業は、計画通りに実施できなかったが、支援を要する児童に対して手厚い指導ができた。
- ・高学年児童には、大阪市派遣の外国人講師による外国語科（英語）の授業、低中学年児童には、大学より外国人講師を招聘し、特別活動（外国語活動）を実施した。
- ・学級図書を整備や図書館開放、図書委員会の読書推進活動により、読書に取り組む児童が増えた。
- ・「話型」の継続指導を徹底することで、多くの児童が自分の意見や考えを発表できた。
- ・積極的に視聴覚機器【授業用PC、ディスプレイ、タブレット】を活用した。プログラミング教育については、外部講師招による研修会を予定していたが、実施できなかった。
- ・コロナ禍による運動制限があったが、児童の運動量を確保することができた。また、トップアスリートによる「夢・授業」の実施等により、児童の運動への関心を高めることができた。
- ・コロナ禍の中、生活目標として保健指導を中心に掲げ、「保健だより」を通して児童のコロナ感染症対策への意識を高めることができた。手洗い・マスク着用はほぼ定着した。
- ・毎月発行する「食育だより」、「給食だより」に対する関心は高く、児童も自ら進んで読むことができた。また、給食の残食率は0である。

大阪市立今福小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>1 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>2 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>4 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて解消した割合を毎年 100%にする。</p> <p>2 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>3 年度末の校内調査において暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度同様、0 とする。</p> <p>4 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度同様、0 とする。</p> <p>5 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を 90%以上にする。</p> <p>6 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を 95%以上にする。</p> <p>7 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を 80%以上にする。</p>	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 3、道徳心・社会性の育成】</p> <p>進んで元気にあいさつできるようにする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 「あいさつ週間」を毎月実施する。</p>	A
<p>取組内容②【施策 2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>学校のきまりを守ることについて、生活目標を毎週設定する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 廊下・階段の歩行指導を徹底する。</p>	B

取組内容③【施策3、道徳心・社会性】 縦割り班編成により、活動の活性化を図り、異学年交流を深める。（マネジメント改革関連）	B
指標 計画的に、縦割り班活動に取り組む。	
取組内容④【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 年間指導計画に沿って防災・防犯に関する授業を実施する。「警備及び防災・防犯の計画」 「安全対策マニュアル」に基づき災害時に備えた訓練を実施する。（カリキュラム改革関連）	A
指標 各学年、学期に1時間の防災・防犯教育の授業を実施し、通常の避難訓練を年3回実施する。	
取組内容⑤【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。 <div>（カリキュラム改革関連）</div>	A
指標 ゲストティーチャーの招聘や地域の力を活用し、校内体験学習を実施する。また、校外の施設等を見学し、文化・芸術に関する体験活動を全学年で1回以上実施する。	
取組内容⑥【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校生活の中で、児童が「自分のことを大切に思うことができる」という気持ちを育めるような取組みをする。（マネジメント改革関連）	A
指標 月1回の校内委員会を実施し、共通理解を図り対策を打ち出す。	
取組内容⑦【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】 人権教育・道徳教育の年間指導計画を作成し、児童理解に努め、講師を招いた人権教育研修を年1回行う。 <div>（カリキュラム改革関連）</div>	A
指標 月1回の校内委員会において児童理解に努め、対策を講じる。また、講師を招いた人権教育研修を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①挨拶できる児童は増えた。挨拶の習慣はついてきたが、自ら進んで挨拶するとはいかない。コロナ禍でも挨拶運動は活発に行われ、友だち同士で挨拶している姿も増えた。</p> <p>②大部分の児童は学校のきまりを意識していたと思うが、学校の決まりを把握していない児童もいるのではないかと感じることもある。（上靴で廊下を歩く、帽子をかぶらずに遊ぶ、等） 廊下階段を走っている児童もまだいるので、その都度、指導する必要がある。冬場の服装について、今後検討が必要である。毎週生活目標を設定し、指導を徹底した結果、廊下階段での右側歩行を意識する児童が増えた。廊下などに引いた矢印の線を意識している児童は増えた。</p> <p>③コロナ禍のため、縦割り班活動はほとんどできなかった。</p> <p>④マニュアルに基づき、防災・防犯計画的に実施した。今年度は、「掃除の時間」に実施した。事後に、警察署員及び校長がリモートによる講評を行った。</p> <p>⑤全学年で、年一回以上の体験活動ができた。また、全学年対象に劇鑑賞会を行った。</p> <p>⑥校内委員会等により、各児童に対する教職員の理解を深めた。</p> <p>⑦人権研修として、国際理解教育をテーマに、ソンセンニム（韓国の先生）を招いた特別授業を実施した。児童アンケートの「学校は楽しいですか」については、肯定的回答が94.2%となった。</p>	

次年度への改善点

- ①挨拶について、朝の挨拶だけでなく、昼の挨拶「こんにちは」等も言えるよう指導する。
- ②自分の持ち物（算数セット等）に名前を書くよう、指導する必要がある。
- ③学校目標達成のため、各学級でも指導する必要がある。縦割り班活動を必ず実施する。次年度は、コロナ禍も想定し、別の形での活動も考える必要がある。
- ④人権研修は、テーマを考えて、こう継続実施する。
- ⑤今後もゲストティーチャーを招聘し、児童がさまざまな体験活動ができるよう企画する。
- ⑥児童が「自分のことを大切に思うことができる」いろいろな取り組みを行う。
- ⑦校内委員会で話される内容を、各教職員がみられるようデータ化することを検討する。

年度目標	達成 状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 2 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 3 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 4 小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、前年度までの課題や現状を踏まえ、体力向上に係る目標を、各学校ごとに必ず設定すること。（例：50m 走、たち幅とび）の平均の記録を前年度より 1 ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校学力経年調査における標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 2 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 3 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 4 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 5 全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、前年度までの課題や現状を踏まえ、体力向上に係る目標を各学年ごとに前年度より 1 ポイント向上させる。 6 市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を、各学年とも前年度より 1 ポイント以上向上させる。 7 校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」といった項目について肯定的な回答の割合を 90% 以上にする。 	A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>学力向上に向けて、指導方法や取組内容の充実を図る。（マネジメント改革関連）</p>	A
<p>指標 すべての教員が関わった形で、教員は年 1 回以上の授業研究を実施する。</p>	

<p>取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの状況に応じた指導を通して学力向上への取組みを進める。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 習熟度別授業については、一人ひとりの状況に応じたクラス編成を行う。</p>	
<p>取組内容③【施策4、国際社会において生き抜く力の育成】 全学年で、アクティブラーニングを活用した英語活動を進める。 (グローバル改革関連)</p>	A
<p>指標 5・6年生の英語科、3・4年生の外国語活動の時間を充実させる。1・2年生においては、年間を通して計画的に外国語活動を進める。また、外国人留学生、大学教授等を招聘し、児童向けの実践的英語活動や教員向け英語研修を行う。</p>	
<p>取組内容④【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 読書習慣の定着を図るため、読書タイムを設定したり、読書量を調べたりするなど、意欲的に取り組めるようにする。 (マネジメント改革関連)</p>	A
<p>指標 児童アンケートで「進んで本を読んでいますか」の児童の割合を8割以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基本的な話型を身につけ、発表の際に活用できるようにする (マネジメント改革関連)</p>	A
<p>指標 児童アンケート「話し合いの時、自分の意見を発表していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</p>	
<p>取組内容⑥【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 1人1台PCや授業用パソコン等を活用し、児童の学力を伸ばす教材の活用を進める。またプログラミング授業のあり方について研究する。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 学習活動で、大型ディスプレイやCD、授業用パソコン、1人1台PC、タブレット端末などを活用する授業を月に2回以上実施する。大学や民間企業等から講師を招聘し、プログラミング教育の出前授業や教員向けの研修会を実施する。</p>	
<p>取組内容⑦【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 体育的な用具を充実させ、外遊びを意欲的にしようとする環境を整備し、児童の体力向上に努める。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 学年に応じた外遊びや、体力向上につながる運動を年間通して行う。 かけ足週間や大縄遊びなど、運動に関する取組みを行う。</p>	
<p>取組内容⑧【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 50m走と幅跳びについて児童一人ひとりに目標を設定させ、走・跳の運動(あそび)の授業を計画的に行う。 (マネジメント改革関連)</p>	B
<p>指標 体育科授業の年間計画に位置付け、学期に1回記録をとり意欲を高める。</p>	
<p>取組内容⑨【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導や清潔週間等を実施し、児童の健康な生活習慣の確立を図る。 学校保健委員会を通じて児童の健康課題について協議し、健康づくりを推進する。 (カリキュラム改革関連)</p>	A

指標 清潔週間を隔月に1回行う。	
保健だよりを毎月発行し、配付時に内容に基づいた保健指導を行う。学校保健委員会を年に1回行う。	
取組内容⑩【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 日々の給食時間の指導や、栄養指導を行うことで、食への関心を高め、食事をしっかりとる子どもを育てる。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 年2回以上の栄養指導を行う。 「給食だより」「食のおたより」を活用した給食指導を、毎月行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①計画通り実施し、研究紀要の作成、城東区の各小学校への紙上発表も行なった。</p> <p>②習熟度別授業については、コロナ禍で授業計画が立てにくかったため、あまり行うことができなかったが、T2による指導を充実し、各児童の状況に応じた指導を通して学力向上に取り組んだ。</p> <p>③英語および外国語活動については、全学年で計画的に実施できた。さらに、ゲストティーチャーによる低・中学年児童向けの実践的英語活動や、教員対象の英語研修も行った。</p> <p>④読書タイムを週1回設定し、読書活動を続けることができた。城東図書館を利用したり、図書館司書が本の紹介コーナーを設けたりと、児童が読書に親しむ工夫もできた。児童アンケートの「すすんで本を読んでいますか」の項目では、肯定的回答が81.4%であった。図書室に英語ポータブルDVD等を設置し、英語コーナーを設けた。</p> <p>⑤ペアトーク、グループ発表、全体発表、ハンドサインの活用など、話し合いの仕方を工夫したことで、自分の意見を積極的に発表できる児童が多くなった。児童アンケートの「話し合いのとき、自分の意見を発表していますか」の項目では、肯定的回答が昨年度75.7%→本年度83.3%と向上した。</p> <p>⑥授業用パソコンや一人一台PCなどの活用を進めることができた。オンライン学習も施行実施することができた。</p> <p>⑦多くの児童が、積極的に外遊びを行った。かけ足週間や大縄遊びは、コロナ禍のため、実施することができなかった。</p> <p>⑧子ども一人一人が体力向上のため、目標を持って取り組んだ。</p> <p>⑨計画通りに実施できた。保健だよりによる啓発や保健指導の積み重ねにより、児童の健康に関する意識も高まった。児童アンケートの「手洗い・うがいをしっかりと、健康に気を付けていますか」の項目は、肯定的回答が93.9%であった。</p> <p>⑩計画通りに実施できた。給食の残食率0。コロナ禍のため、栄養指導の回数が少なくなった。</p>	

次年度への改善点

- ①来年度の研究に向けて具体的に計画を立てる。
- ②習熟度別学習の充実に向けて、取り組み方を工夫する。
- ③次年度も外部講師を招聘し、体験活動を実施する。
- ④更に児童が読書できる環境を整えていく。
- ⑤6年間を通して、話型を使い話し合い活動ができるよう工夫する。
- ⑥一人一台パソコンの活用をさらに進める。オンライン授業のあり方についても工夫する。
- ⑦コロナ禍においても運動量確保の工夫をする。
- ⑧運動の記録を取ることは、児童の励みとなるので継続する。
- ⑨情勢に応じた生活目標・便りの内容になっていたのも、今後も継続する。
- ⑩毎月発行される便りで指導ができたので継続する。

次年度も新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて、教育活動全般のあり方を工夫する必要がある。